

毎週日曜発行
2025 1/19

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

ニュース



おいしいイチゴを作るには？

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

イチゴの育ち具合を確認(かくにん)する山元いちご農園のスタッフ



赤くて甘い、冬の果物イチゴが旬を迎えているよ。宮城県は東北でも有数の生産地なんだ。みんなの食卓に届くまで、どんな工夫があるのかな。おいしさの秘密を探ろうと、生産の現場を訪ねたよ。

(8面に関連記事)

広大な敷地に、ビニールハウスがたくさん立ち並ぶ宮城県山元町の山元いちご農園。面積3・2ヘクタールを誇る東北最大級のイチゴ栽培施設です。スタッフの収穫に励む中、ハチがハウス内を飛び回り、受粉に一役買っていました。「イチゴを実らせるための大事な働き手。刺すことはないので安心して」。農園のスタッフ笠松美智子さんが説明します。



山元町では東日本大震災前まで、129件がイチゴを栽培していました。津波でハウスや農機具が流されるなど大きな被害を受けました。「地域の復興のために栽培を再開したい」。震災から3カ月後、岩佐隆さん(69)ら被災した生産者4人が山元いちご農園を設立しました。従来の地植えから、高さ1メートルほどのプランターでヤシガラなどに肥料の入った溶液を与えて育てる高設栽培を取り入れ、2012年12月にイチゴの出荷を始めました。現在は敷地内でカフェやイチゴワインの醸造も手がけています。イチゴを無駄にしない取り組みにも、力を入れています。ハウス栽培の強みを生かして長い期間生産し、形の悪い果実は菓子やジャムなどに加工しています。成長の途中で間引いた葉は、敷地内で育てるブドウの肥料として活用します。近年はタイや香港、シンガポールなど、輸出にも力を入れています。大きくて甘みのある日本のイチゴは海外でも人気。「世界の人にも宮城の美味しいイチゴを食べてもらいたい」。岩佐さんの夢は大きく広がります。

働くハチが受粉に一役



従来の地植えから、高さ1メートルほどのプランターでヤシガラなどに肥料の入った溶液を与えて育てる高設栽培を取り入れ、2012年12月にイチゴの出荷を始めました。現在は敷地内でカフェやイチゴワインの醸造も手がけています。イチゴを無駄にしない取り組みにも、力を入れています。ハウス栽培の強みを生かして長い期間生産し、形の悪い果実は菓子やジャムなどに加工しています。成長の途中で間引いた葉は、敷地内で育てるブドウの肥料として活用します。近年はタイや香港、シンガポールなど、輸出にも力を入れています。大きくて甘みのある日本のイチゴは海外でも人気。「世界の人にも宮城の美味しいイチゴを食べてもらいたい」。岩佐さんの夢は大きく広がります。

今週の注目ニュース

◇20日(月) 米大統領就任式
米大統領選挙で選出された共和党のトランプ氏が、第47代大統領として首都ワシントンD.C.で就任の宣誓をします。トランプ氏は2016年に当選し、今回が再登板。米大統領の返り咲きは132年ぶりです。

今日の紙面

- 2面 みんなのギモンにこたえるモン
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 おいしいイチゴの見分け方